

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル：
Association between maternal fish consumption during pregnancy and preterm births: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル：
妊娠中の魚介類の摂取量と早産との関連

ユニットセンター(UC)等名：福岡ユニットセンター
サブユニットセンター(SUC)名：産業医科大学サブユニットセンター

発表雑誌名：Environmental Health and Preventive Medicine

年：2023 DOI: 10.1265/ehpm.23-00084

筆頭著者名：石塚 一枝
所属 UC 名：福岡ユニットセンター

目的：

ヨーロッパの大規模コホート研究では、魚介類摂取が多いと早産が少なかったという報告がある。本研究では、比較的魚介類の摂取量が多い日本の大規模コホート研究において、妊娠中の魚介類の摂取量と早産との関連について検討することを目的とした。

方法：

エコチル調査に登録した妊婦とその子ども 81,428 組を対象とした。食事摂取量は、食物摂取頻度調査票を用いて評価を行った。多変量ロジスティック回帰分析により、魚介類の摂取量と早産との関連を検討した。

結果：

魚介類の摂取量と早産は関連がみられなかった。魚介類の内訳として、練り物の摂取量が多い群において早産のオッズ比が高いという関連が見られたが、そのほかの種類では関連はみられなかった。

考察(研究の限界を含める)：

先行研究の結果とは異なり、本研究では魚介類の摂取量と早産の関連はみられなかった。研究の限界として、妊娠中の魚介類の摂取量は研究参加者自身の回答に基づくものであったため、誤申告があった可能性がある。また、既知の交絡因子を考慮したが、今回考慮していない交絡因子が存在している可能性がある。

結論：

本研究では、妊娠中の魚介類の摂取量と早産には関連がみられなかった。